筥崎宮と応神天皇

国道三号線の箱崎付近を走っていると、大鳥居が見えます。筥崎宮の玄関とも言える大鳥居ですが、これが撤去され、再建の話しもないというので、今月は筥崎宮に焦点を当てます。
本宮からまっすぐに海岸まで延びる、１ｋｍ近くある広い参道に４つの鳥居が並んでいますが、筥崎宮から３番目に立つのがこの大鳥居です。鉄筋コンクリート製で高さは１６ｍ、特別に高いとは言えませんが、両柱の太さは国内有数のものです。

この鳥居は１９３０年に田川市の初代市長を務めた林田春次郎氏によって建てられたもので９０年近く経っています。おそらく石炭景気に沸いたもので、当時の箱崎はまだ福岡市ではなく、糟屋郡で一番発展した町でした。この頃は現在の国道三号線あたりが海岸線で、その名残か灯台の役目を果たす石造りの高燈籠が、大鳥居の脇に鎮座しています。

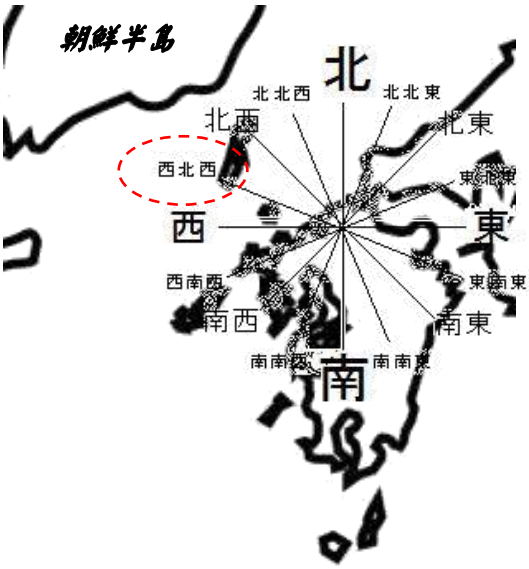
さて、神社仏閣は通常どちらを向いているのでしょうか。

多くは、南を向いています。この理由は【天子（皇帝）南面す】という風水の思想が神社創建にあるからです。風水では東西南北それぞれの方角に、青龍・白虎・朱雀・玄武という４柱の神が置かれ、中央の土地を守護してくれます。そして、土地を活性化してくれる「気」が必要になります。これは龍脈とも言われ山の尾根を伝って流れてきます。つまり、北側に山があって、そこから流れてくる「気」を得て太陽のエネルギーを得やすい南を向いているのが理想的な訳です。

南向きの次に多いのは、太陽が昇る東向きです。そうでもない少数派は西向きですが、北向きはほとんどありません。では、筥崎宮はどっちを向いているかというと、西北西なんです。何でこんな向きになったのでしょう。筥崎宮は、いったい何を見ているのでしょうか。

地図を見てみるとわかりますが、参道を延長していくと博多湾に浮かぶ能古の島を避け、海の中道と志賀島をかすめて湾の外にある玄界島を越え、壱岐を左に見ながら対馬にぶつかります。つまり、朝鮮半島からの博多湾に延びる航路を表しているようです。

おそらく参道に並ぶ鳥居が重なって見えるように進めば、筥崎宮にたどり着くわけで、同時に、威厳を持たせ、にらみをきかせていたのでしょう。



筥崎宮は筥崎八幡宮と言われ、宇佐、石清水両宮とともに日本三大八幡宮に数えられます。
主に祭られる神は応神（おうじん）天皇で、母親である神功（じんぐう）皇后が新羅（朝鮮半島の一部）に出兵して後帰国、筑紫国蚊田（かだ）の里、現在の糟屋郡宇美町で、槐（えんじゅ）の木につかまり立位の姿勢で出産したと言われています。それを宇瀰（うみ）その後、宇美（うみ）と称し、ここが現在の宇美八幡宮となります。そのため「安産・育児」の信仰が特に篤く、多くの方が安産祈願や御礼参り（初宮詣）に参拝されます。

へその緒は、箱に入れられ川に流されました。これが博多湾に流れ出てたどり着いた先が「筥崎」というわけです。この箱は埋められそのうえに松を生えました。本殿に向かって右脇にある「筥松」がこれです。「筥」の字は天皇家に由来することが多く恐れ多いと言うことで、人々の生活の場では「箱」の字が使われるようになりました。箱崎と筥崎宮の字が違うのはこのためです。

この筥松と手を洗う手水舎の間に「湧出石」があります。国に一大事があるとき、地上に姿を現すと言われる不思議な石ですが、現在は少しだけ顔を出しています。これに触れると運気アップ、招福開運を招くと言い伝えられており、女性に大人気のパワースポットとなっています。

ﾊﾟﾜｰｽﾎﾟｯﾄ
*運気
*霊力
*波動

触れると運が湧き出るといわれる霊石「湧出石」

さて、話しの場所を筥崎宮から宇美八幡宮に移します。

本殿の後ろにある末社「湯方社」を囲むように、玉垣を築きこぶし位の石が山ほど積まれています。安産祈願を終えた妊婦が“お産の鎮め”として此処の石を預かって持ち帰り、祈願通り安産だった場合は、同じくらいの大きさの石を準備して、お子様の名前等を記して健やかなる成長を願い、安産御礼（初宮詣）の御祈願にてお祓いの後に、預かった石と一緒にふたつにしてお納めするのが慣しとなっています。やはり安産が多いのか、多くの石であふれています。

ここの名物に「子安餅」と言うものがあります。粒あんの焼き餅で、隣の茶店でいただくことが出来ます。

宇美八幡宮といえば

子安餅 ☺

生まれたらまず、産湯です。ここに応神天皇が産湯を浸かったという井戸もありますが、わざわざ峠を越えて飯塚市の大分（だいぶ）八幡宮で産湯に浸かったと伝えられています。生まれたばかりの赤ちゃんですから、竹で編んだかごに乗せられて峠を越えます。このかごを「ショウケ」と呼びこの峠道が、現在の「ショウケ越え」です。大分八幡宮は、応神天皇、その母親の神功皇后・巫女である玉依姫命が祭られています。ここにも、産湯に浸かったという井戸があります。なぜ産湯のために一山越えなければならなかったのか疑問が残りますが、そう言い伝えられていますので、あえて追求はしません。ただ、「大分」と言う意味ですが、ここで半島に出兵した軍勢を解散したという説があります。つまり、大分かれ（おおわかれ）と言う意味です。

平安時代の延長元年（923）に、この八幡神が大分宮から博多湾岸の筥崎へ引っ越すことになりました。つまり、大分宮は筥崎宮の元宮ということになります。外交上、内陸の地では不都合だったのでしょう。引っ越した筥崎宮は祈りの場として崇敬を集めるとともに、海外との交流の門戸として重要な役割を果たすことになります。それで、門戸が西北西を向いているのでしょう。

≪産湯の井戸≫

さてまた、筥崎宮に戻ります。国指定重要文化財の楼門は、筥崎宮の一番見応えのある所と言えます。「敵国降伏」の扁額（へんがく）を掲げていることから伏敵門とも呼ばれています。現在の楼門は文禄３年（1594）筑前領主小早川隆景が建立、三間一戸入母屋造（さんけんいっこいりもやづくり）、檜皮葺（ひわだぶき）、建坪はわずか 12 坪ですが、三手先組（みてさきぐみ）といわれる枡組によって支えられた、83 坪余りの雄大な屋根を有した豪壮な建物です。

１３世紀に高麗（朝鮮半島）を占領したモンゴル帝国は、二度にわたって日本に攻め込んできました。元寇です。このとき箱崎は戦場になっています。幸いに２度とも台風によって退けることが出来ましたが、このことが筥崎宮の神格を益すことになります。この後も戦争のたびに「敵国降伏」が祭り上げられ、戦（いくさ）の神と言われてきましたが、さすがにこの時代には合わずスポーツの神に祭り上げられるのが現状です。プロ野球のソフトバンクホークスや、サッカーのＪリーグのアビスパ福岡が祈願していることはよく知られています。

必勝祈願！

勝利！！

さて、この話しの主人公である応神天皇のお父さんである仲哀天皇の話しをしなければなりません。九州を支配している熊襲(くまそ)の反乱を収めるために、奥さんの神功皇后と箱崎のお隣である香椎の地にやってきました。ここで最期のトリを務める神社が香椎宮です。実は、今回出てくる４つの神社の内最高位に値します。戦前まで、官幣社という位がありました。官幣大社から国幣小社まで６段階に分かれ、筥崎宮と香椎宮がこの官幣大社です。福岡県では他に宗像大社だけです。
筥崎宮では、本殿に１番近い鳥居の横に「大社筥崎宮」と岩に刻まれています。本体は官幣大社なのですが官幣の２文字はなぜか削られています。ちなみにこの字を書いたのは玄界灘で日本海海戦に勝利を収めた海軍大将東郷平八郎による書です。香椎宮にも同様の書がありますが、こちらは「官幣大社香椎宮」となっています。ただし、官幣の部分だけセメントで埋めてありますが、読み取ることは出来ます。では筥崎宮どこが違うのかというと、１０年に１回、勅使と言って天皇からお使いが来るのです。次回おいでになるのは、２０２５年です。なお勅使が来る勅祭社は、九州ではここと八幡宮の宇佐神宮だけです。

≪筥崎宮：大社筥崎宮≫と≪香椎宮：官幣大社香椎宮≫（官幣の部分だけセメントで埋められている）

神功皇后は啓示を受け、朝鮮半島の新羅（しらぎ）出兵を決意します。「熊襲（くまそ）よりももっと重要な朝鮮半島の新羅を攻めよ・・」とのご神託があったそうですが、まず国内の熊襲を鎮めようとした仲哀天皇に熊襲の矢が当たって戦死したと伝えられます。遺体は現在古宮跡の棺掛椎（かんかけのしい）に立てかけられました。するといいにおいがしてきたと言うのが、香椎の語源と言われています。その後、武内宿禰（たけのうちのすくね）により、かつて応神天皇と関係が深かった下関の豊浦宮で祭られました。この武内宿禰という人は不思議な人で、第８代孝元天皇の曽孫で、景行・成務・仲哀・応神・仁徳の５朝に仕え、大臣となり、神功皇后を助けて新羅出兵などに功績があったと言われています。この通りだと、３００年位生きていたことになります。どうしてそのように長生きできるのかというと、香椎宮の北方３００ｍに「不老水」という井戸があります。ここから湧き出る水を飲んでいると、長生きできるそうです。現在も、飲むことができます。

このお水を飲めばあなたも長生きできるかもしれませんね

日本には日本３大名水と呼ばれている名水があり、香椎宮の不老水はその中に含まれています

神功皇后は、武内宿禰を連れて半島に軍をすすめます。帰国してから、前記のように応神天皇を産んでいます。この間３年ほどです。そんなに妊娠期間が長かったのかと疑問が起きますが、お腹に月延石とよばれる石を抱いて体温を下げていたから可能だったそうです。疑問に思われる方もいらっしゃるでしょうが、余計な詮索はせずに、話を進めていきます。今なら、週刊新潮や週刊文春が黙っていないでしょうね。　最期に、香椎宮のパワースポットを紹介します。ご神木の綾杉がそうで「ちはやふる・・・・」の歌碑の右手に回り、綾杉の枝の間を通して、赤い鳥居の笠木（かしき）と貫の間で拝殿が覗ける箇所を探しましょう。鏡を御神木の綾杉を通してお祈りする事ができる場所があります。

次に、綾杉から楼門に向ける石畳を行くと、一個だけ色が違った石があります。その上に立って楼門を見るとその向こうに鳥居が見えて「開」の字に見えます。まさに開運地点です。

日が暮れて筥崎宮に戻り、本殿に１番近い鳥居の前に出来る屋台の「花山」で、焼き鳥を肴にお酒をいただき、女性ながら多くの功績を積んだ神功皇后に思いをはせながら、名物のラーメンで締めるといいでしょう。

香椎宮のパワースポット！

香椎宮＊神器のひとつ、鏡を探そう

神功皇后が「末永く日本国を守りたまえ」と祈りを込めて植えられた杉の木。日本一の御神木です。拝殿が覗ける箇所を探していくと光が反射するポイントがあります。皆さん身長によって立つ位置（スポット）が変わります

香椎宮＊石畳の開運地点！！

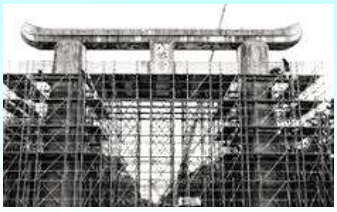
門構えの中に鳥居が入れば、漢字の「開」という字になります。そうです、この石畳の上こそ「運」を「開」く、つまり開運地点なのです

筥崎宮＊屋台「花山」

昭和 23 年創業の老舗屋台「花山」です。
花山のラーメンと焼き鳥も食べるパワースッポトかもしれませんね

名物ラーメン

七輪と焼き鳥



しろくま薬局
有限会社 馬場薬局